



SGH活動を活用した大学入試の事例について、紹介します。
今回は、和歌山大、岐阜県立看護大、長野県立大、早稲田大の各大学です。

◇ **高橋優希さん（和歌山大学観光学部観光学科合格）のレポートです。**

私は、春から和歌山大学の観光学部で新たな一步を踏み出します。将来、観光方面の仕事に就きたいと漠然と考えていた私は、SGH活動を通して実際にやりたいことを見つけ、進みたい学部を決定し、合格することができました。この経験を通して身につけたことや考えたことが伝わればと思います。

イギリス研修

私は、外国の文化への関心や外国人の日本文化に対する関心を実際に体験したり、聞いたりしたいという思いから2年生の時にイギリス研修に参加しました。

イギリスでは、姉妹校提携を結ぶヘイドンスクールのほか、ケンブリッジ大学、大英博物館、ビッグ・ベンなどに訪れました。ヘイドンスクールでは事前学習を行った、文化の衰退についてディスカッションを行ったり、授業を受けたり、文化紹介で浴衣の着付けを行ったりしました。ケンブリッジ大学では学生と世界の情勢や自分の夢についてディスカッションを行いました。

その中で、彼らの日本に対する興味が大きいことが分かったと同時に、日本から離れることで日本の文化の良さを改めて実感しました。確かに言葉の壁は大きく、英語が理解できず、ケンブリッジの学生に何度も同じことを言ってもらいました。しかし、自分の考えを伝えようという思いや相手の言っていることを理解したいという思いで、身振り手振りを使って積極的に話すことで、相手と楽しく話すことができ、積極性を持つことの大切さを痛感しました。

また、着付けをしていく中で、彼らは初めての浴衣に非常に興味を持ち、積極的に参加をしてくれました。その時見た笑顔は今後も忘れないと思います。この経験で私は、私の大好きな日本文化は、外国人を含む多くの人の笑顔を引き出す力があると気付きました。そして、私は将来日本の伝統文化を彼らに知って貰いたい、体験して貰える様なことをしたい。そう考えるようになりました。



進路実現

私が和歌山大学観光学部に進路を決めたのは3年生の夏、進路指導室で観光学に関する著作を読んだ時に、私がやりたいと思っていたことを研究していた先生方が、和歌山大学に多数いらっしゃることを知ったからでした。早急に担任の先生と話し合い、推薦入試に挑戦することを決めました。今思うと、もっと早くから観光学に関する本を読み、自分のやりたいことをどの学部・学科で学ぶのか考えておけばよかったと思います。

そして、先生方に添削をして頂きながら、志望理由書を書く際に自分のやりたいことをお話ししたら、「関市内の蕎麦屋の山九（やまきゅう）さんがそれに近いことをやってるよ」と教えていただきました。そこで実際に蕎麦屋さんを訪れてみると、外国の方を相手に料理教室をやっているところからその輪が広がっているといった、英語での発信の大切さなど、とてもためになるお話を聞くことができました(ちなみに面接試験時に、山九さんのお話は大学の先生方にとっても興味を持ってもらえました)。

また、私が理想とする観光と今の観光との差異を知るために、関市役所の観光交流課にアポをとり、お話を聞きに行きました。実際に行っている取り組みや今後の見通しなど現場の声を聞くことができ、自分の考えに厚みや根拠を持たせることができました。

このようにSGH活動で学んだ方法や考え方を活かして、自らの進路のために研究活動を行い、無事に合格を勝ち取ることができました。

最後に…

SGH活動は、「まとめたり」「発表したり」とめんどくさいと思うこともあると思います。しかし、それも今後役立つ経験になります。

私は、関高校はいろんなことができる高校だと思います。しかし、自分から動き出さないと何も始まりません。せつかくの機会だと思うので様々なことに挑戦することをお勧めします。私は3年間のSGH活動を通して興味のあることに積極性に取り組むことの大切さを改めて実感しました。進路が決まっている人は興味のあることや進路に関わることにどんどん参加して自分の経験を積み、進路が定まっていない人は自分のやりたいことを見つけるために興味があることは何でも取り組んでみてください。

3年間は本当にあっという間でした。悔いが残らないよう残りの高校生活を充実させていってください！

◇ 山内奈那さん（岐阜県立看護大学看護学部合格）のレポートです。

SGH活動

私は2年生のときのSGH活動で教育の分野を選択しました。その理由は後ほど分かるとして…

私たちのグループでは教育の中でも外国人児童に焦点を当てて調べることにしました。そして学校の先生から教えていただいた美濃加茂市役所にある生涯学習センターの中の外国人児童向けに開放している学習施設に行き、勉強のお手伝いをさせていただきました。

その学習施設で私がペアになった子はフィリピンから来た中学生の男の子でした。その子は日本に来てからまだ1年たってないという状況で、小学生用の漢字プリントから始めて、一生懸命日本語を勉強している途中でした。日本語はまだ話すことができなかったのが英語で会話を… なのですが、私の英語はすごく片言英語でした…

それでもペアの男の子は私と会話をしようと、私が言ったことをしっかり聞いてくれたり、簡単な英語で話してくれたりと私に合わせてくれました。申し訳ないなという思いもありましたが、コミュニケーションがとれたということがすごく嬉しかったです。

学習施設でボランティアをしていらっしゃる方が私に、私のペアの子の得意な教科だったり今一番苦手なことだったり、その子に関することをたくさん教えてくださいました。その子と真剣に向き合っているからこそわかることなんだなと思いました。

このSGH活動は私にとって、とても刺激的なものになりました。コミュニケーションをとること、そしてひとりひとりを理解することの大切さを学ばせていただきました。こういった刺激は、学校にいただけでは感じられないものだと思います。

私は最初、ちょっとだけ…SGH活動めんどくさいなと思っていました。でも実際体験してみるとやってよかったと思えました。みなさんも学校での活動はもちろん、学校外での活動も積極的に取り組んでほしいと思います。今までとは違った視野が得られるかもしれません。



美濃加茂市生涯学習センターでの学習支援の様子（上写真）

清長豊先生の講演（左写真）

発達障がいのある子どもや、外国人児童・生徒への支援について学びました。

進路選択

私の今のなりたい職業は養護教諭です。SGH活動で教育を選択したのはこれが理由です。中学生のときの出来事がきっかけで養護教諭に憧れるようになりました。あまり詳しく書くことはできませんが、中学生のときの友達が養護教諭の先生の協力もあって学校に来られるようになったということがありました。そのときに何も出来なかった自分を情けなく感じたと同時に、養護教諭という職業に惹かれるようになりました。

この夢を叶えるために岐阜県立看護大学看護学部を選びました。この大学を志望した理由はオープンキャンパスに行かせていただいたときに、先生方の熱心さ、学校の施設が整っていること、生涯学習を大切にされていること、そして看護の勉強をしながら養護教諭の勉強もできるということを知り、とても魅力を感じたからです。

ここで、「養護教諭なら教育学部じゃないの？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが。養護教諭は看護学部と教育学部のどちらの学部からも目指せるのですが、実は私はこの学部選択にすごく時間がかかりました。

3年生になってもどちらの学部にするか決めきれず、担任の先生や養護教諭の先生にたく

さん相談しました。そして先生方とお話をして自分の中で考えるうちに病気や障がい、悩みをもっている生徒に正確で的確なサポートをできるようになりたいと思い、より専門的な知識が学べる看護学部に進みたいと思うようになりました。今では、生徒が将来その課題をもっていても自分自身で考えていける力を身につけることの手助けをしていける養護教諭になりたいと思っています。

私が選んだ学校は看護大学なのでこれから先、看護師になるための勉強をたくさんさせていただくことになります。その中で、もしかしたら看護師という職業に、より魅力を感じるようになるかもしれません。看護師、保健師、助産師、そして養護教諭と看護の中でも様々な職業を目指せることも看護学部の素晴らしいところであると思っています。なので、大学で勉強していく中で自分はどのような人でありたいのか、ということじっくり考えていきたいと思っています。

そうは言っても現時点での一番の目標は養護教諭になることなので、今はそれに向かって全力で取り組んでいきたいと思っています。看護と養護教諭の勉強をどちらもするということはとても大変なことだと思いますが、自分で決めたことなので諦めずに頑張っていきます。

今回、岐阜県立看護大学に合格することができたのは、たくさん相談を聞いてくれた友達、小論文や面接の対策してくださった国語科や進路担当の先生方、養護教諭の先生、そして担任の先生の支えがあったからです。本当に本当に感謝しています。

長くなってしまいましたが …最後に…

今、将来何になりたいか決まっていらない方もいらっしゃると思います。それでも、私は焦る必要はないと思います。むしろ中学生や高校生のときの、まだ知らないことの方が多いこのときに何になりたいか決めるということの方が無謀な話だと思います。なので、たくさんの方にチャレンジしてもらいたいです。なにがきっかけで自分の考えが変わるかわかりません。学校での勉強や部活動はもちろん、友達と遊んだりお話している中にも何かヒントがあるかもしれません。ゆっくりでもいいので自分のやりたいことを少しずつ見つけていってもらいたいです。

◇ 今井千裕さん（長野県立大学健康発達学部こども学科合格）のレポートです。

私は、保育園に通っている頃から保育士になるのが夢でした。関高校では勉強に力を入れるのはもちろんですが、SGHの活動でたくさんのことを学ぶことができました。また、活動の中で学んだことが、自分の強みになりました。その強みをいかして長野県立大学に合格することができました。

SGH活動

SGHとはスーパーグローバルハイスクールの略で、勉強だけでなく日本の問題や海外の問題を取り上げ、自分たちのできる解決法を考え実行します。そして、広い視野を身につけることや実行力などを身につけることを目的とします。

私は、2年生の時にSGHの授業の一環として課題研究を行いました。「海外に学校を作るためには」というテーマで行いました。今の日本と海外の教育現場の課題を調べ、今自分たちにできることを考えました。そこで、書き損じはがきを集め、「国際学校建設支援協会」に送り換金してもらい、学校建設資金に当ててもらおうと考えました。この活動を全校の生徒や先生に広め、課題研究の期間が終わってからも続けることができました。わずかではあったものの、自分たちのやったことがどこかで役に立っていると考えるととてもうれしく感じます。

他にもSGHの活動として、ボランティア活動に積極的に参加してきました。特に心に残っていることは外国籍のこどもへの学習支援です。自分の母校の小学校へ行き、「にほんご教室」というところで一日生活しました。その教室には、自分の力で授業についていくことが難しく、支援

が必要な外国籍のこどもを集め、少人数でゆっくりと丁寧に授業を行います。こどもたちが先生の話に熱心に聞きわかれようとする姿や、わからないことがあるとすぐに先生に質問したり、私にも質問してくれました。一日生活してみても、自分の受けてきた教育が当たり前ではなく、外国籍のこどもに対する支援や制度が不十分であると感じました。

またSGHの講演会を通して、障がいのあるこどもに対する支援や制度の不足にも気づきました。これは小学校のことですが、保育の現場にも当てはまると感じました。この活動に参加したことで、保育士としてこうした課題を考え、解決したいと思いました。また、自分で保育施設を運営して少しでも保育を良くしたいという思いが強くなりました。



進路実現

3年生になっていよいよ進路を決定します。私は保育士になりたいという夢はあったものの、どこの大学に行くかは決めていませんでした。そのため学校で受ける模試の受験票には、大学コード表を見て、岐阜県に隣接した県の保育学科のある大学を書きました。そこで長野県立大学を知り、家に帰り、インターネットを使って調べました。長野県立大学のホームページをみて、自分のやりたいことができ、また、自分のなりたい保育士像と大学側が目指す学生像が重なりました。そこで、この大学を志望することを決めました。調べていくうちに、受験日程に自己推薦選抜があることがわかりました。枠は3人と簡単なものではありません。ですが、長野県立大学に行きたいという気持ちが強く、一回でもチャンスを増やそうと思い自己推薦選抜を受験することを決めました。

私が長野県立大学を志望した理由は2つです。1つ目は海外プログラムがあることです。私は2年生のSGHの活動を通して、一度は海外に留学したいと思いました。他にも、駅で海外の人に電車の乗り方について英語で聞かれ、何とか英語で答えることができたものの、いつもの英語の授業でやった文法や単語などを使うことができず、とても悔しい思いをしたこともありました。そのため、長野県立大学の海外プログラムはとても魅力を感じました。海外留学をしたいという夢を叶えることもでき、海外の保育を学べるというとてもよい経験をすることができると思いました。

2つ目は1年次全寮制であることです。学生間の距離が近く、常に一緒に生活することで切磋琢磨することができます。また、これから社会に出るうえで大切なコミュニケーション能力を養うことができます。この2つから、私は長野県立大学を志望しました。

また、部活動やSGHの活動で得た強みを最大限にアピールできるように面接練習を何度も重ねました。その結果、長野県立大学に自己推薦選抜で合格することができました。決してここまでくるのは簡単なものではありませんでしたが、家族や友達、たくさんの先生の支えがあったからこそやりきることができました。もう少しで、親元を離れ新しい生活が始まります。この支えや期待にこたえられるように、4年間全力で勉強し、立派な保育士になって恩返ししたいと思います。

今伝えたいこと

関高校は勉強だけでなく部活動やボランティア活動などたくさんのことを経験することができます。その経験が自分の強みになり、大学に合格することができました。本当にSGHの活動に

感謝しています。様々な活動がなければ、合格することもできていなかったと思うし、保育士になりたいというきもちもここまで強くならなかったと思います。何よりも、人に支えられていることに気づかされました。

関高校は他の学校では学べないことをたくさん学べる学校です。たくさんの友達や先輩、後輩がいます。優しく、いつも私たちのために動いてくださるたくさんの先生もいます。私は、関高校で高校3年間を送れたことができてよかったと思います。これからは関高校の卒業生として世界で活躍します。

◇ 奥田真仁さん（早稲田大学先進理工学部応用化学科合格）のレポートです。

私は来年度、早稲田大学先進理工学部応用化学科へ進学することになりました。将来は医用素材・機器の開発に携わりたいと願っています。私がこのような進路を選択した経緯をさかのぼってみると、この進路決定には、関高校でのSGH活動で学んだことが大きく影響していたと感じます。

私がかねてより、将来は医療に関わる仕事に就きたいと考えていました。しかしそれは漠然とした思いであり、具体的にどのような形で関わればいいのかはまだ固まっていませんでした。それがより強い思いとなり、医用素材・機器の開発へと具体化したのは次のような体験があったからだと思います。

関高校では、さくら塾をはじめ、毎年多くのSGHに関わる活動があります。様々な分野の講師の先生の講話を聞いたり、見学ツアーへの参加をしたりします。私は3年間で10回ほどそうした活動に参加しました。その中でも私の進路決定に大きく関わった活動を挙げてみます。

・朝日大学医療特別セミナー（村上記念病院）

一年生の秋に朝日大学の医療特別セミナー（村上記念病院）に参加しました。医療の現場で働く人の話を聞いて人の命に関わる仕事がいかに大変なのかを学び、そうした仕事に関わることへの思いが強くなりました。

また実際に病院を見学して医療現場には多くの医療機器が使われていたことから（右写真）、医療工学という分野があることを知り興味を持ちました。



・ベトナム研修

上記の体験の直後にベトナム研修に参加しました。刃物の町関の会社である貝印の工場を見学したり、JICAベトナム事務所で国際貢献について学んだりしました。日本と関わりの深いベトナムへは、公的な機関だけでなく民間も含め様々な支援がなされていますが、医療においても、大都市病院への患者の集中という大問題を解決するための、地域の拠点病院への「医療機材設備・人材育成」支援がなされています。



私たちが訪れたダナン市はその対象であり、ダナン医薬技術大学でも、日本の医療技術や医療機器がベトナムでもとても役立っているという説明を受けました（左写真）。

ちょうどこの分野に興味をもちはじめた私は、医療機器や素材を開発すれば日本の

中だけではなく世界の人も助けることができるという思いが生まれ本格的にその夢を目指そうと思うようになりました。

また、現地の人と交流した際に自分が話した言葉がうまく伝わったときにはうれしかったです。バイクの洪水のような道路を勇気を出して横断したことや、日本では経験したことのない買い物での値段交渉など貴重な体験もできました。少額のお釣りはお金ではなくキャンディーで渡されたのは驚きでした。ホイアンの綺麗な夜景も忘れられません。実際に現地に行くと、本やテレビで知るのはまた違う世界が見えてくるのだと実感しました。自分の世界が少し広がったように感じました。

・先端科学リサーチツアー【Ⅰ】(東大・早稲田)

二年生の夏休みには東京リサーチツアー(東京大学・早稲田大学)に参加しました。東大では三人の教授の講義を受け、早稲田大学では最先端の研究施設であるTWINSを訪問しました。どの先生の話もとても刺激的で興味深かったです。TWINSでは最新の医用素材・医療機器の研究を見学しました。目の前で機械である人工心臓があたかも本物の臓器のように動いているのを見ることができ自分もこんな機械が作ってみたいと思いました。また、TWINSで研究をしている関高校の先輩、長谷部有洋さんのお話をうかがうこともでき、早稲田大学へのあこがれをもつきっかけとなりました(右写真)。



・先端科学リサーチツアー【Ⅱ】(名大・名古屋インキュベータ)

二年生の秋には名大・名古屋インキュベータ見学に参加しました。名大ではX線の透過装置を使った実験を行いました。高校ではできない高度な実験を体験することはとても楽しかったです(右写真)。

インキュベータでは医工連携事業についての説明を受けました。特に印象に残ったのはカテーテルです。私たちもカテーテル手術の練習を体験してもらいましたが、その器具の精巧さに驚くとともに、できるだけ患者に負担を掛けないための医療技術が進歩していることがよく分かりました。



・各種セミナー(さくら塾、未来創造、SGH講演会)

関高校では、希望者対象のさくら塾(社会連携セミナー)や、学年全体で行う「未来創造週間」はあるので、自分の関心のある講座を選択して参加するようにしました。義肢装具士の堀江耕太さんや、へき地医療に尽くしておられる医師の後藤忠雄先生のお話からは、医療に携わるために必要な心構えなどを聞くことができ、たいへん参考になりました。

また、さくら塾以外にも、生徒全員で聞くSGH講演会も年に複数回あり、2年生の時には、G+SPREAD社の若尾守康社長から、国際貢献に関するお話を伺いました。G+SPREADは自社の商品の売り上げの一部と寄付金により、アジアやアフリカに学校を建設する活動をされています(今現在、ケニア・ミャンマー・バングラデシュの三校)。

地元でそのような活動をしておられる方がいることに感動した私は、家でもそのことを話しましたが、それを聞いた家人も感動し、自分が勤務する小学校に伝えたことから、その小学校の6年生への講話、そして小学生による寄付活動（アルミ缶回収）へとつながっていききました。感動する心というものはこのように広がっていくものなのだと知ることができた貴重な体験でした。

若尾守康社長の講演の様子



こうして三年間の高校生活を振り返ってみると、授業や部活動はもちろんですが、SGHでの活動が自分の成長に大きく関わっていたことを強く感じます。こうした活動に積極的に参加したことで、自分の興味にも気づくことができ、それが大きく膨らんでいきました。そのおかげで高いモチベーションを保つことができたのだと思います。私に将来の指針を示してくれたこれらの活動に感謝！感謝！です。

SGHのツアーやセミナーに参加して、様々な分野の話を知ったり体験したりしてみると、意外な自分の興味に気づくことができるのではないのでしょうか。在校生の皆さんもぜひ積極的に参加してみてください。自分のやりたいことを確認したり見直したりするためのいい機会になると思います。